

第2回 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する 施策推進協議会の開催概要

○日時 平成28年12月5日(月) 10:00~12:00

○議題

- (1) 基本指針(原案)について
- (2) 平成29年度に向けた重点施策に係る協議概要について
- (3) その他

○主な意見

【現状と課題】

- ・最大の課題は如何にPR(発信)するかということ。大企業はできるが、我々は「していない」「できない」。
- ・まずは、地元で食べてもらい消費して欲しい。例えば、鮎ずしは簡単に漬ける方法があり、県民に知って頂き興味を持っていただきたい。
- ・Fish-1グランプリに参加するなど認知度を広げる取り組みをしているが、現時点では、まだまだ認知度が低い。
- ・海外でも東京でも新しいものが売れる。新製品開発が最も重要な課題であるが、今あるものが、売れないと新しいものを作ることもできない。
- ・数年で高齢化の波がくるので、人材確保が重要課題である。
- ・担い手の確保が重要課題ではあるが、世襲制になっており外の人を受け入れにくい風潮がある。
- ・第三者から技術を認めてもらえるようなシステムがあるとよい。
- ・高島扇子は、京扇子「雅」、江戸扇子「粋」といった独自の色をつくっていく必要がある。
- ・食品関連では、危機管理が課題であり、管理体制にも費用がかかる。

- ・工技センターでは、古くは地場産業の底上げの支援をしてきた。近年は頑張っている企業、チャレンジしている企業への支援が中心となっている。

【基本指針に対する意見】

- ・将来的に滋賀の産業に発展する期待を持って頑張っている企業への支援を積極的にお願いしたい。

- ・事業を継続していくには経営のコスト構造を変えていくことも必要で、合理化、のれんわけ、合併等も一つの手法である。

- ・後継者の育成においては、技術、技能の継承だけではなく、企業の継承、経営者の育成の部分があっても良いのではないか。

- ・価値の発信では、「歴史」「伝統」に加えて[文化]「技術」の面も重要である。

- ・地場産業の製品と伝統的工芸品は多様である。一緒にできる方向性の部分と一緒にできない方向性の部分があるのではないか。

【首都圏情報発信拠点についての意見】

- ・首都圏情報発信拠点での発信については、例えば企画展等なら、ある程度産地に任せてもらえればよいものが考え出せる。

- ・現場での情報収集は大事であり、どれだけマーケティング活動が行えるかである。

- ・首都圏情報発信拠点では、消費者だけでなくバイヤー等もターゲットとする活動を行って欲しい。

【その他提案・要望】

- ・「滋賀」のものであることがわからない発信の仕方をしている場合がある。消費者の立場にたったPR（情報発信）の仕方を戦略的にしなければならない。

- ・市町との連携、協力も重要である。